

ウイルス性肝炎

肝炎を起こすウイルスには主にA、B、C、D、E型の5種類があります。このうち慢性化することが多くて肝硬変や肝がんになる危険性が高いのはC型です。また、B型は重症の肝炎（劇症肝炎）を起こすことがあります。

	説明	検査項目
B型肝炎	B型肝炎ウイルスは、多くの場合、キャリア（保有者）との血液、体液を介して感染します。感染しても70%は無症状か軽症で、30%程度は急性肝炎の症状を起こします。稀に劇症肝炎を起こしたり、慢性肝炎に移行することもあります。	HBs抗原 現在、B型肝炎ウイルスに感染しているかどうかを調べます。 HBs抗体 過去に感染したことがあるかどうかを調べます。また、ワクチン接種後にも陽性となります。
<p>HBs抗原：陰性 : HBs抗体：陰性 → 今までB型肝炎ウイルスに感染したことはありません。</p> <p>HBs抗原：陽性 → B型肝炎ウイルスのキャリアです。</p> <p>HBs抗体：陽性 → 過去にB型肝炎にかかったか、まれに、潜在感染の可能性、もしくは、ワクチン接種したことがあります。</p>		
C型肝炎	B型肝炎と同様、血液や体液を介して感染し、無症状キャリアになることが多いです。その後、慢性肝炎、肝硬変、肝がんに移行する場合があります。	HCV抗体 C型肝炎ウイルスに感染しているか、過去に感染したことがあるかどうかを調べます。

肝炎ウイルスの感染は自覚症状がないことも多く、気付かないまま慢性化や重症化することもあります。早期発見や感染予防のためにも検査を受診しましょう。